

# 基本方針1 健康づくりと介護予防の推進 (健康寿命の延伸)

## 基本施策項目 2-1

### フレイル対策・介護予防の推進

指標名	令和6年度 実績値	令和7年度 実績値	令和8年度 目標値
なごやか寄り合い 実施会場数(か所)	360	350	370
通所型サービスBの実施 会場数(か所)	29	29	60
からだ元気塾の 参加人数(人)	985	1,022	1,000

## 基本施策項目 3-1

### 高齢者が活躍できる場の推進

指標名	令和6年度 実績値	令和7年度 実績値	令和8年度 目標値
シルバー人材センター 会員数(人)	978	1,018	1,110
高齢者クラブ会員数 (人)	9,582	9,031	10,500
高齢者バス割引乗車事 業延べ利用者数(人)	300,868	292,553	340,000

## R7年度末までの取組み内容、課題、今後の取組み方針

なごやか寄り合い\*1は、新規立ち上げを検討している団体への支援を行い、新たに3会場が開設された。

からだ元気塾\*2は、送迎付きで公民館区29地区全地区での実施を継続するとともに、事業の普及啓発を行い、参加者が増加している。

高齢者が身近な通いの場で、自分の役割や生きがいを見出し、社会参加の意欲を高めることができるよう、引き続き、新たな通いの場の立ち上げや活動継続の支援、参加者増に向けた普及啓発を進める。

\*1 各地区の公民館や集会所などで開催する高齢者の通いの場

\*2 近くの公民館や介護予防事業所などで開催している運動教室

シルバー人材センターの会員数は増加してきているが、引き続きPR活動の強化や定期的な入会説明会の実施等により、会員数の増加を図っていく。

高齢者クラブ\*3では、会員加入促進に向けた活動について、各地区でできる範囲の取組みを行っているが会員数は減少している。今後も加入促進のための諸活動や参加機会を増やす工夫等に取り組む、一層の会員加入の実現を推進する。

高齢者バス割引乗車事業について、70歳以上の高齢者に対し、市内路線バスの運賃を割り引くことにより、高齢者の外出支援を図る。

\*3 概ね60歳以上の会員からなり、社会奉仕活動やスポーツ・文化活動などを通じて交流を行う団体

# 基本方針 2 多様なニーズに対応した 介護サービスの提供

## 基本施策項目 6 - 1 給付適正化の推進

指標名	令和6年度 実績値	令和7年度 実績値	令和8年度 目標値
給付適正化(ケアマネジャー)研修会の参加人数	137	153	150
住宅改修・福祉用具購入利用者宅の現地調査(回/年)	13	11	10
軽度者に対する福祉用具貸与の再点検(回/年)	1	1	1

## 基本施策項目 6 - 3 要介護認定適正化の推進

指標名	令和6年度 実績値	令和7年度 実績値	令和8年度 目標値
申請から要介護認定までの 平均期間(日)	40.0	45.0	37.0
認定調査員との 定期連絡会の実施(回)	6	6	6

### R7年度末までの取組み内容、課題、今後の取組み方針

居宅介護支援事業所等を対象とした給付適正化研修会を令和8年2月にオンラインで開催し、67事業所から153人の参加があった。

住宅改修及び福祉用具購入においては、申請内容と利用者の状況の整合性を審査し、適正であったかの確認のため、住宅改修6件、福祉用具5件の現地調査を行った。また軽度者に対する福祉用具貸与について、必要な手続きがされているか点検を行った。

今後もケアマネジャーの資質向上を図るとともに、適切な給付につながるよう適正化に取り組んでいく。

\*1 軽度者（要支援・要介護1）の方の福祉用具貸与が適正に行われているか確認するもの。

申請から要介護認定までの平均期間については、申請数、主治医意見書の提出、訪問調査の結果の取込及び審査会の日程調整等複数の要因で変動している。今後は調査員の増員\*2、主治医意見書のきめ細やかな提出依頼、事務処理の改善など期間短縮に努める。

認定調査員との定期連絡会については、令和6年度より引き続き定期連絡会を6回開催し、訪問調査結果の平準化について連携を行った。令和8年度以降も継続して連絡会を行い、適正な要介護認定となるよう取り組んでいく。

\*2 社協の訪問調査職員人数の令和7→8の増員状況（正規職員2名→3名、継続雇用職員2名→1名、嘱託調査職員16名→17名）

# 基本方針 3 認知症施策の推進

## 基本施策項目 9 - 2

### 認知症バリアフリーの推進

指標名	令和6年度 実績値	令和7年度 実績値	令和8年度 目標値
見守りネットワークの協力事業者数(事業者)	368	424	330
見守りシール利用登録者数(人)	161	183	300
チームオレンジ設置数(か所)	2	2	3

## 基本施策項目 9 - 3

### 普及啓発・予防

指標名	令和6年度 実績値	令和7年度 実績値	令和8年度 目標値
認知症サポーター養成講座受講者数(人:累計)	24,903	25,800	27,000
キャラバン・メイト実働者割合(%)	76.4	72.3	80.0

## R7年度末までの取組み内容、課題、今後の取組み方針

見守りネットワークの協力事業者の拡大に努め、協力事業者は424事業所と増加した。また、行方不明高齢者の対策として、QRコード付きの見守りシール<sup>\*1</sup>の配布を継続し、利用者が増加している。今後も、SNS等様々な媒体を活用して、周知啓発を行うとともに、見守り事業所の拡充に努め、見守り体制の強化を図る。

チームオレンジ<sup>2</sup>についても、新規立ち上げ活動を進め、令和8年3月末時点では2か所開設した。今後も、新規開設に向け取組みを進める。

<sup>\*1</sup> 認知症等で道に迷われたりする高齢者の方の早期発見や身元の特定を目的に令和4年度より導入。発見者がシールに記載された番号を伝えることで個人が特定できる。

<sup>\*2</sup> 認知症の方やその家族のニーズに合った具体的な支援に繋げる仕組み。

学校、企業等で認知症サポーター<sup>\*3</sup>養成講座を開催し、令和7年度は897人が参加した。今後も、企業や小・中学校・高校生等若年世代への養成講座の開催に向けて関係機関への働きかけを推進する。

キャラバン・メイト<sup>\*4</sup>については、令和7年度中に新たに10名が登録された。新規登録者数の増加により、一時的に実働者割合が前年度と比べて低下しているが、今後、新規登録者に対して優先的に講師の依頼を行っていくことで、実働者割合の向上を図る。

<sup>\*3</sup> 認知症について正しく理解し、地域で認知症の人やその家族を温かく見守り、自分のできる範囲で手助けする応援者

<sup>\*4</sup> 認知症サポーター養成講座の講師役。自治体等が主催するキャラバン・メイト養成研修を受講し、登録する必要がある。

# 基本方針 4 介護人材の確保

## 基本施策項目 10 - 1

### 介護業界のイメージアップに向けた情報発信

指標名	令和6年度実績値	令和7年度実績値	令和8年度目標値
「介護の出前授業*1」の実施中学校数(校)	8	9	14

## 基本施策項目 11 - 1

### 介護職員の処遇改善

指標名	令和6年度実績値	令和7年度実績値	令和8年度目標値
介護職員等処遇改善加算*2取得率	97.1	98.7	100.0
介護職員等処遇改善加算取得する法人のうち加算Ⅰを取得する法人の割合	56.6	60.0	75.0

## R7年度末までの取組み内容、課題、今後の取組み方針

中学生を対象とした介護の出前授業\*1について、令和7年度はこれまで実績のない未実施校へ訪問し、事業説明を行った結果、令和7年度は令和5年度から3校増の9校で授業を実施した。今後は、未実施校へのアプローチ等を行っていくほか、より中学生の理解が進む実施方法についても検討する。

\*1 現場の最前線で働く介護職員を「コンシェルジュ」として派遣し、オリジナルの教材を活用した講義や車いす体験等を行う出前授業。

令和7年度の取り組みとしては、運営指導を介し、既已取得している事業所には、より上位の加算取得についてアドバイスを行ったほか、未取得の事業所にはヒアリングを行った。令和8年度の取り組みとして、令和8年6月に、介護報酬の前倒し改定として処遇改善加算が上方改定される予定であり、その要件について事業所に対し周知する。またそれまで処遇改善加算の対象でなかった、訪問看護、訪問リハビリ、居宅介護支援も対象となることから、これらのサービス事業所に対し、重点的に働きかけを行う。

\*2 介護職員の賃金を安定的に引き上げるために、介護サービス事業所が介護報酬に上乘せして受け取れる加算であり、取得要件がある。処遇改善加算には複数の区分（加算Ⅰ～Ⅴ）があり、加算Ⅰが最も高い加算率。